

大阪・禁野本町遺跡

きんやほんまち

1 所在地 大阪府枚方市中宮北町

2 調査期間 一 第一〇三―三次調査 二〇〇三年(平15) 一
二月～二〇〇四年三月、二 第一〇三―四次調査
二〇〇四年四月～二〇〇五年三月

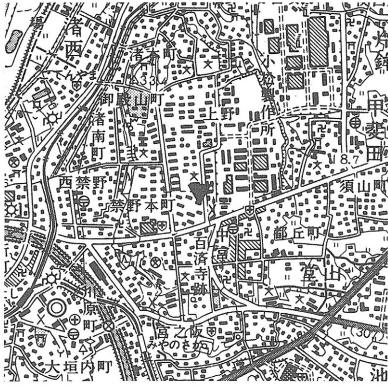
3 発掘機関 (財)枚方市文化財研究調査会

4 調査担当者 西村健司

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

禁野本町遺跡は、天野川と穂谷川の間を挟まれ、淀川に面し突出した交野台地縁辺の海拔二七～三四mの地点に立地する、弥生時代終末期から近世にかけての複合遺跡である。遺構の中心は奈良時代から平安時代にかけての時期で、本遺跡

の南方約五〇〇mに位置する特別史跡百濟寺跡を造営した百濟王氏との関係が注目されている。

これまでの調査では、百濟寺跡の伽藍中軸線に一致する南北方向道路とともに、この道路と軸方向を揃え、一辺一〇〇m余りの外郭と一辺約二七mの内郭からなる方形区画を検出している(第六九次・第一〇三次調査)。この区画は、内郭・外郭ともに四辺の各中央に出入口を備えていたと推測されている。

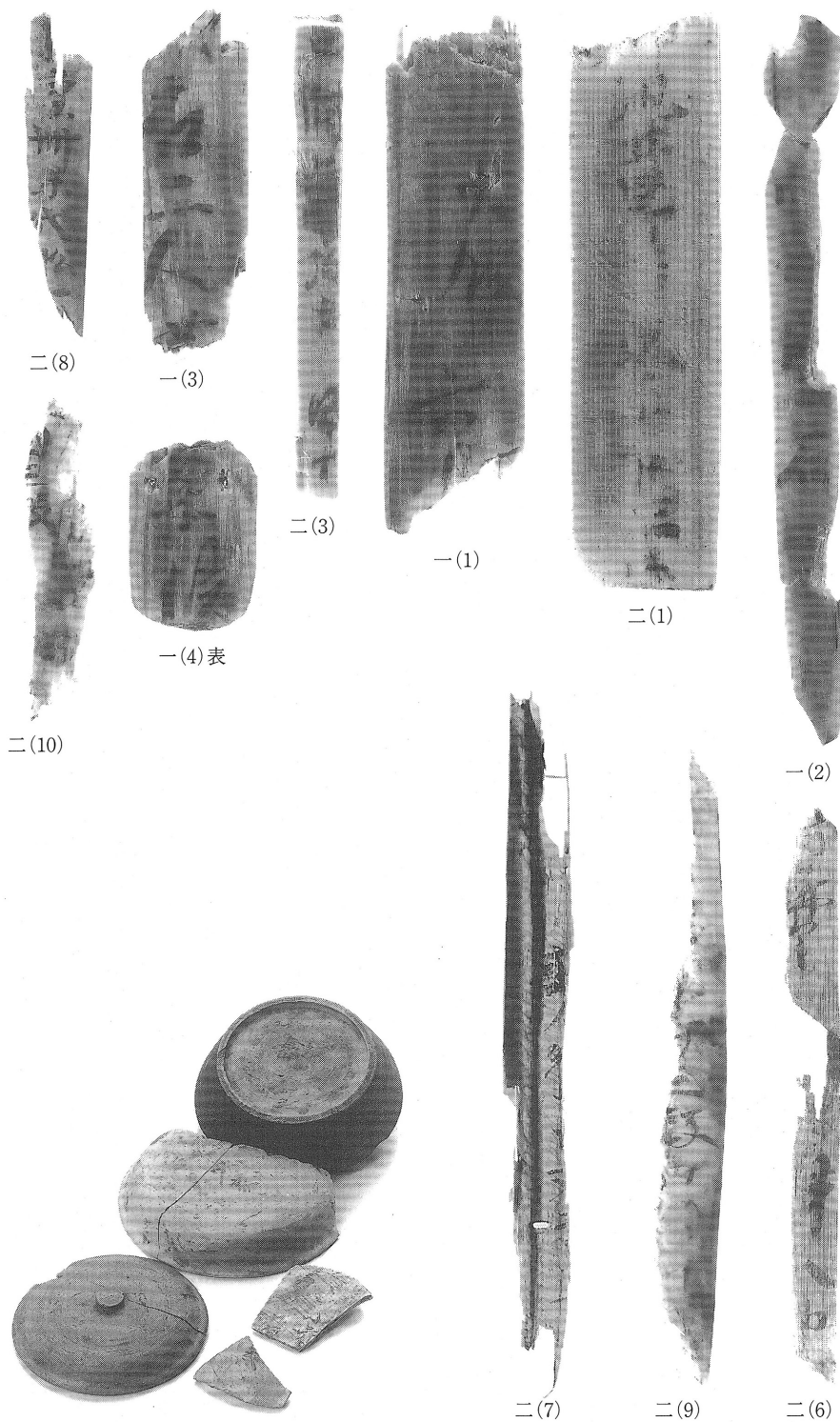
一 第一〇三―三次調査

本調査は、第一〇三次調査の東隣接地で、約一〇〇〇m²を対象とした。調査の結果、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱建物、井戸、前述の南北道路に直交する東西道路などを検出した。

木簡は、井戸SE一〇一から、木製品・木片・自然木・種子類・土師器・須恵器などとともに、五点出土した。井戸SE一〇一は、掘形の直径約三・二m深さ約三mで、井戸枠は抜き取られていたが縦方向の枠板らしきものが一部に残り、底部は一辺約一・四mの方形をなす。奈良時代後期から末頃までのものと考えられる。

二 第一〇三―四次調査

本調査は、第一〇三―三次調査区の東側周辺約三二〇〇m²で実施したものである。調査の結果、東西道路の延長部分や、さらに北側で別の東西道路を検出したほか、掘立柱建物・井戸・池状遺構などを検出した。遺構の時期は、奈良時代前期から平安時代初期にかけ



禁野本町遺跡出土墨書土器

(木簡はいずれも赤外線画像)

